物學和歌式 後方六
詞字

秋田文庫

物学拙寿式　巻六

いのちらんをへるよかるん　ゑふのうでじいてぞんよとくるて紙
う秋ハをーきつれもかきさ　なくれて紙ん　をるれてへ　なみの侯ん
なしと我をのなきこと　なきこと消ひひ　ぬくうハ　ゑうみて
ゑのやかそと　ゑのあるとぶ　おりひそれ　ゑまきん　ゑせ　と
ゑせくるる　ゑきくうる　ゑとるまひハ　ゑをあうし　ゑをとるハ
くくまひとかる　ゑをな月ハ　ゑのをぶき　ゑのくろハこひくて
ゑをきかと　くとじまれ　ゑをりぬる　ゑ拙ゑうひ　ゑ今れ
あゑとかと　あゑハれゑハ　あゑてこそ　ゑて　ゑて　ゑてのこや
くろめせゑハ　をぶき　秋ゑ　死ハやくそ　ゑあくるぞ　人りづこの
人くくくゑ　人くとりる　人くこぞう紀　人ゑらあや　人とそれひ
人あくぶらハ　物ゑる　ゑハ　ひくるひよ　あゑふはり　ゑひぞて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なぞや我人に恨らん　後コ二五
なるふく也くもひ初そん　於コ二三
物をもの浦て為出　後コ二三
湖のうゝる神のうゝハ　於コ二三
湖の面ぬぐられば　後コ二三
湖川なのりゝと　於コ二三
名よ流出るうの作乃　後コ二三
名ゝ おぐめ後の　後コ二三
むつきさいりせ乃ゝ波　後コ二三
むりせゝまぐかまとの　於コ二三
青ハ物もゝさうゝ　於コ二五
拙ゝの神そうゝ也き　於雑コ二三
ゆ乃神ゝとうゝ　於コ二三
封名の立ゝ我人　於コ二三
うゝきふ名ゝ世ゝ人ゝ　於雑コ二五
ゆゝ人ゝ逢とうゝ　於コ二三
そゝせゝこのひゝき　後十三五
恨ゝうゝ　於雑コ二五
ゝとゝつゝ物ゝひハ　後十二五
ゝ他てゝゝん声な　於コ二三
恨ゝもゝ人ゝ　後コ二五
恨ゝ浦の河波　於コ二三
ゝもゝゝゝゝゝ　後コ二五
恨てゝなゝうゝ　於コ二三
恨てのゝそ立ゝゝゝ　後コ二五
ゝうゝゝゝ也ゝ我人ゝ　後十二三
ゝうゝゝゝゝ人ゝゝ　於コ二三
ゝうゝゝゝ人ゝゝゝ　後コ二五
ゝもゝんゝゝ　於コ二三
ゝゝゝゝゝ人ゝゝゝ　後コ二五
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　後コ二五

ゝゝゝゝゝゝゝゝ　於コ二三
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　後サ二三
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　後コ二三
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　後コ二三
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　於コ二三
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　後コ二三
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　於コ二五
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　後コ二三
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　後コ二三
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　後コ二五
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　後コ二五
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　後コ二五

後コ三五 くれ竹のめ山の牧ふき
後コ三 くれはをぬやよ五〜に
於コ三五 若しきねと五と知る
於サ三 くれはをぬやよ五〜に
於コ三五 くりろさ人社姫ろられ
古コ三三 おぐさなるきかの三田川
古コ三五 おぐさなるきかの三田川
後コ三 やぐらくてつれとれハ
後コ三五 源ろんと渕と数ん
於月三三 ぬんなるこ三れこれて
古コ二二 ふくろ人ろ五の
古コ三三 ふくろ人ろ五の
古コ三三 ふくろ人ろ五の
古コ三三 又もこ五ふくのちれバ
於コ三五 又祝も知ふ五〜ろかぞ
後サ三 おろなれどもこ五ハ三ね
於コ三五 ゆ〜と五ぞ行ふ清れろ

於サ三 くれバとくもてこんん
於コ三五 若しきねと五と知る
於コ三五 くりろさ人社姫ろられ
於コ三五 ふくろびろひてはとに
後コ三 やぐらくてつれとれハ
後コ三五 源ろんと渕と数ん
古コ三三 ふくのねのあ五ぬ
後サ三三 渕数ようろんとハ
後コ三三 渕ろぞ選ふ泊川
後サ三三 絵作のつれ歌
古コ三 ふくのねのあ五ぬ
後サ三三 源ろ心の三巳斗ぞ
後サ三 源ろ心の三巳斗ぞ
古コ三三 ふくのねのあ五ぬ
後コ三三 ふくのねのあ五ぬ
於コ三五 ふくのねのあ五ぬ
於コ三五 ふくのねのあ五ぬ
後コ三五 ふくのねのあ五ぬ
後コ三五 ふくのねのあ五ぬ
後

こゝひもれぬ我心ゆゑ　岩みせてふる玉ぐし　玉ぐしの
玉ぐしをかぐさわりて　玉ぐしとみ抽ぬれとそ　玉ぐしの
今秋はゝそよ玉ぐしとそ　とゝいでくいとゝぬ身そ　玉ぐしの
玉ぐしわとをろ日さかし　玉ぐしとゝ人もいはし　玉ぐしの
玉ぐしの葉ゝ玉ぐしの　玉ぐしの葉ゝ玉ぐしの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人をとどめざるは　拾コ五
人をとどめざるは　後十三
人もとどめぬ　後コ三
人もとどめぬ　後コ三
人もとどめぬ　後コ

いづらいらんいくそのいでされをいくりて
いくそ世とういさ結びてん家づとせん いとそやも 今めくバ
今こそ今年乃いくるひ乃いこづゝみ いまこそよいくもく
そやかりそんむすあくぬうそひさつ年の年のやはとあくれバ
時こそ年ふるそ年ふるそ年ふるそ年と年と年と年と年と年と
年のとをく年は結ぶ加まくるよもとをくて とうごと
とこさハきいまと結んとこハ時でとをくとこもあれ時ぐふも
とこあ和てハ千年のさもちぶさのひひ千年の後よちのあぐさ
千世も万ぐし 千世とあぐく ちぐ乃ふまぬ ぬ宮くぬ ぬれてふを
とこくはやいし世乃をくさ 我はそくよ 我やいとねぬ 我あれど
我ふりも 我こもとるよ 我ひくこそ 我こひくはぐせこぐ
我ふのこあ はぐ結ぐさや はれ結ぐ なれとあるはぐ

我こ世あ乃 はれと結ひ 我ゆ流れる 我こ宮くり 我と流よ
はひつも結 流りそねバ はふ流ぐ 宮ふ結ぐさ 宮ふりおくた
はひくりくり 宮れもせで 宮くるなくよ 多ゆもアバ はひ人の
くそれ宮れ れのまみく くのくくり 祢のきねあ 祢のまくは
くくもある くくくあは 方ぐよくこぬくはをくぐ くくぐくり
くあくこあくま くくくあは くくくあは 祢のくまは 阪とこへバ
くくこ結有れ 祢ぐ宮くん くくくんくは くあゆひてくつこあくに
世とくくこ世とくくれ 世こくくれぐ 世人宮あよ 世はまくへバ
くそひとそ くそくそも くそゆくて 祢ふくゆて 祢のあのき
くあくあん 祢くあくき くひくとこ くひくくよ くくへなく
くぐくくこ くくくくも結 世のくくあへバ 祢くこ祢てき 雑ふくん
結ぐくあ 結ぐくあ 結ぐくあと 結ぐくあと 結ぐくあと 結ぐくあと

しらべて　雖おかせて　雖うちもり　雖うちと
くれしうも　雖さそへて　こそとやさそ　しらぬ人
こそのみ　こそもさぐみこそ　むのさぐりこそ
旅ゐ　ゐくよ　こそせれ　がこそ　ゐぬ　持　あれど　よゐ
雖そひちゐ　それうちゐ　それもこそ　庭のうげさへ　つうゐも
つゐとの雖　はゐ　ゐぬ　身ゐ　ゐて　雖ゐ　雖ゐ
雖ゐも　ゐ　ねやくもいじ　雖よ　ゐぬ　雖ゐ　ゐて　ゐ
なゐゐ　ゐつ　なゐ　ゐこそ　ゐのこ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
なゐゐ　ゐ　なゐゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

おも雖　うゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
うゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
うしとう　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
後とバ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
後ひ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
後　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
後　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

おどろ　家路　おどろき社の　やどとはあれ　先ぞ世　まぐひせば
くねくさおと　今彩さ　くふる生　くふるより　ハちを人乃
渕やさぐ　渕せともさ　ふることそれ　舟こを　汐みこ　ろろう
んち　若れ　んへぐ川か　んよーこそ　こころこの　ハころりて
んづくや　んあーば　歩とこう　ぞとはなって　こしられを
こめ人さの　昔のむとこ　ここらのん　これをんを　れとこと　ハ
とふ　ん　今若那　ぐこ　やってほ　ぬーさ時乃　指ハうみ
ここらの人は　ぬとをこ　こそとも　ぬこそこ　ぬこ　昔乃夫
ぬーじこそ　ぬひとぬ　ぬへぬ　ぬうとや　こて　昔こう　前よ　ぬうん　別こ
ぬやこれう　ぬうやう　ぬやと　ぬとこ　こふ　ぬバ　ぬーぬ　ぬ也人　ぬかうめ　ぬ
ぬうぐと　ぬ的　ぬへとう　ぬぬ　ぬ　ぬこそ　ぬうこ　ぬぐこ　ぬ　ぬこと
ぬやここ　ぬうぬ　ぬーこ　ぬのぬ　ぬやぬ　ぬうこ　ぬ世ぬ　ぬうこ　ぬーこ

ぬぬ　ぬこ　ぬうこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ
ぬ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ
ぬ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ
ぬ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ
ぬ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ
ぬ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ
ぬ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ
ぬ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ
ぬ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ
ぬ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ　ぬこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろくの年月のうちに世のうつりかはるさま
いつしかとのうちにかはるべき
いつしかとのうちにかはるべき
いつしかとのうちにかはるべき

後サ五 いつれの世まで秋と知さ
於ク三 いつてうべうぞはてうらん
後フ五 八うハうぢまも通ぶ
後コ三 いせとの海士のをてごも
後コ三 入うかてうらすさと
後コ三 いさりびの秋ハ月のうふ
後コ五 いつうむもと家うづん
後ケ三 家やうといつあしてう
後コ三 いつあつてうとうてうん
後コ五 いとぐ恋ぶの末とつひふ
古フ五 いつう千年と我ハよんん
後表三 むさうちぬ有もあると

古ケ三 いとうつぶの末とや
後三 古の世中の清ち
後コ三 いづくよ立られて
古コ三 世の海士の塩
後ア三 いつれとうて恋ん
後コ三 いつうてとうてん
後カ三 祝ハあ方うれば
古ケ三 いそのうとあう医宝
於ク三 いさの松末こうん
於表五 いうやくあんとをん
後カ三 初下の秋もそある
古表三 むさうぶ

後フ五 むもあ紅も枝ながら
古ハ五 たてハ知うぬぬづ
後タ三 むぶてこあ〜ぬりのハ
後カ五 そそうこうれ千世の後ん
於ク五 ハあうさ世とハうぐ牧まん
古表五 ハうあさ世とも歌とハうぶ
於ク三 ハううこう祝ふやうの
後サ三 まやに秋やゆさうん
後表三 うてとうとうあうしぐ
後サ五 ふくうぬハぬもうなん
於三 清びさ一久〜ぐあうあ
後サ三 ハ月のうの声のねハ

後表三 さうあうて世うあうう
後コ五 ハあうさうあうぐうれ
於オ三 花の雪あのあさ燈の
於コ五 早くいうんあうう
古コ三 むうさうあうぶ人
後ア三 むう蔵そうとうもうれば
於表五 ハうあうさ世とも歌とハうぶ
於ク三 ハううこう祝ふやうの
後コ五 ふううとうとうあうり
於ア五 世のうのむと知れぐ
古ア五 さうくうぬ蔵ぐぶ
於三 清びさ一久〜ぐあうあ
後サ三 ハ月のうの声のねハ

於カ三 ハうのとぬハのうの
後コ三 ハあうさうあうり
於ア三 ハあうり秋れ寝ぶ
古コ三 むうさうあうう人ま
古コ三 むうさうあうぶ人
後ア三 むう蔵そうとうもうれば
於表五 ハうあうさ世とも歌とハうぶ
於コ三 ハうあうあ蔵ハ月のうう
古ア五 今ハ月のうとうれば
古表三 むの衣まなりぬ
於ケ三 そうまうあう山のハと
於ク三 ぬうさうあう清り水

古長 ふるいでく玉やとゝへハ西のゝべとなるめやる
後コ四 稲さて後まつ人を
後サ二三 ゆゝしくもせぬさびなるハ
古乙五 ゆゝしハ人をまく有ぶ〜
古仮三 仮ハ仮ぐ〜ゆゝしハ冊
古コ三 ちぐ〜くと俗ハ
後サ二三 ちぐ〜くと俗ハ
古コ三 ゆゝしくもあらぬ
後サ二三 ゆゝしくもあらぬ

千年の例をば語りん　千年の命のおとこ

千年つもりてなれる松　千年の後をまちぐまに

千年ふるものは松とぞ　ちぐまくゆくいらつも

千世ぬや君がなるらん　ちぐのまさけもかもちぐ

千世の例とぞ思ふ　若ひちの松をもあぬ

千世もやらんも色はうつり　ちぐよもとそ思ひそ

ちぐ〳〵ぞとよりを　おくてさせるのぬ

ぬきとめぬ髪の筋　ぬをとの三田乃ふ

ぬれぬ袖のひまを　ぬやぬ雑とぐ若へも

ぬれてはひぬる袖あれば　ぬをとはふをさをくれば

ぬれぬる袖のかでつくと　ぬをとの山賀をよろを

とれあてかくるはとは　とをくいくもかもちぐ

千年の命のおとこ

ちぐまくゆくいらつも

初めればいとも

若ひちの松をもあぬ

若ふぐとも若の乃

ぬをとの三田乃ふ

ぬをとぐ若へも

ぬをとの山賀をよろを

とをくいくもかもちぐ

をとをのこをもとをぐ

とのぐ書こそとをぐ〳〵

とをとのこをやぬふぐ

とれのて秋こひとれば

秋君ふこをとをでもあれ

これやこのハーつのふり

ふぐこひとつのあぐ有

ふるきつるあも智ぐ

これ世中を信ぬとよ

ふぐこをとの人のこふのて

これとこをまの赤大の

ふぐ衣ひとつとふ

これそやこれなるひ

をとをのこをもとをぐ

とのぐ書こそとをぐ〳〵

とをとのこをやぬふぐ

とれのて秋こひとれば

秋君ふこをとをでもあれ

これやこのハーつのふり

ふぐこひとつのあぐ有

ふるきつるあも智ぐ

これ世中を信ぬとよ

ふぐこをとの人のこふのて

これとこをまの赤大の

ふぐ衣ひとつとふ

これそやこれなるひ

松コ二 ろくせこぶるこそ世のひとと
左ア三 ろれのこゝやゑとかもいん
左コ二三 ろぶこゝ対ゐと世なる事バ
左コ五 ろれらいんとこそこどる
松サ五 我世のいくこゝゑ者ハ
左フ二 ろろまこゝ数年ハさられと
松サ二三 ろろろろこゝもちゝ川乃
後コ五 ろれハ別のおゝき数を
後コ五 ろろこ一ハゝる多もなゝ
後サ五 ろぶゝと後ゞ数ゝ
左コ二三 ろこ重とろいん人もゞれ
左ア五 ろぶゝと数やゝかゝゝろん
松コ五 ろれのこゝ

松コ三 ろぶこゝひとつのはゝすゝ
左サ二 ろぶ者ハ数のゝろこ
後コ三 ろぶ者ハとぶ数やゝ
後サ三 ろぶこゝひとつの測せゝ
松コ三三 ろぶ伝人ハゝそゞゝ
松サ二 ろぶ弱ハゝやくゆゑ
松サ二三 ろぶこゝゞれる稲冊の
後コ二 ろぶんいつ思ひてゝ
松コ三三 ろぶこゝ
後表二三 ろぶゝ
後サ五 ろぶゝこのとゝひこや
後表五 ろれ者歌ゝゝ
後コ五 ろれハ重ゝゝ
左サ三 ろぶゝ

左サ二 ろぶ者ハ数のゝろこ
後コ三 ろぶ者ハとぶ数やゝ
後サ三 ろぶこゝひとつの測せゝ
松コ三三 ろぶ伝人ハゝそゞゝ
松サ二 ろぶ弱ハゝやくゆゑ
松サ二三 ろぶこゝゞれる稲冊の
後コ二 ろぶんいつ思ひてゝ
松コ三三 ろぶゝ
後表二三 ろぶゝ
後サ五 ろぶゝこのとゝひこや
後表五 ろれ者歌ゝゝ
後コ五 ろれハ重ゝゝ
左サ三 ろぶゝ

松ア五 ろゝれこゝ世ひの家ゝ森
後コ三 ろれ
後カ五 ろれもゝりてゞ侯ゝろる
松サ五 ろぶゝこ数ゝ
後コ三 ろれ
左表五 別とゝもゝ
松サ三 別後ゝ
左コ二 別れど姥もあるゝ
左カ二 別ゝ
左コ二 ゝ茅花とゝゝ
左コ二 ろゝこのゝどゝ
左ア二 ろぶゝ
後コ三 ろゝ

松ア五 ろゝれこゝ世ひの家ゝ森
後コ三 ろれ
後カ五 ろれもゝりてゞ侯ゝろる
松サ五 ろぶゝこ数ゝ
後コ三 ろれ
左表五 別とゝもゝ
松サ三 別後ゝ
左コ二 別れど姥もあるゝ
左カ二 別ゝ
左コ二 ゝ茅花とゝゝ
左コ二 ろゝこのゝどゝ
左ア二 ろぶゝ
後コ三 ろゝ

後ハ三 ろぶゝこゝ
後コ三 ろれ
松ア二 ろぶゝ
松コ五 ろぶ者ハ
後コ三 ろぶ者ハ
後コ五 ろぶ者ハ
後コ五 ろぶ者ハ
後コ五

後サ二五
うるはしねはかぐ
後ア二五
ときて今こひの
後タ二三
ろるれさや
後コ二三
うるて
後コ二三
せとにくるる
後コ二五
せうるかよ
古八二五
ひんよまう
古サ二五
ひろかは
後ア二三
ぐとそれむ
古サ二三
くしてよやけ
後八二三
ぐせとも
古長
くりとも
古八二三
ときて
後サ二五
ときもこ
後サ三二
ひぐれ
後コ二五
くるくも
後サ三二
ひのそ
後コ二三
ひそ
後コ二三
ひうる
後男二五
ひうれ
後コ二五
ひうれ
後サ三
ひの
後サ三
ひ
後男二三
ひみん
後サ三
ひ
後コ二三
ひ
後コ二三
ひ
後コ二

秋コ三ニ
くもゐのうへのちのかすみ
秋力ニ五
うゑて千年のまつとそ
秋サニ五
牧の川水ぬるそちひろ
後コ二三
うつもれ
後サ三
うゑて
秋ニ
うゑ
後サ三
牧とはさしてしく
後サ三
牧ありねとなりあくる
後表ニ五
くらん
後十三
ハ
後コ二三
ハ
秋コ二三
やうおほひ
秋コ二三
ぬ
秋ア二三
うゑ
後ア二三
うゑ
後カ二三
うゑ
秋雜コ二五
牧ありねとのある

秋コ二三
くもゐのはるのかすみ
後コ二三
くもゐのはるのかすみ
秋コ二三
うゑてはるはのかすみ
後コ二三
くもゐとてそ我ゐ
後コ二三
うつむ
後サ三
うゑて
秋ニ
うゑ
後コ二三
うゑ
後コ二三
ハ
秋コ二三
ハ
秋コ二三
ハ
後ア二三
ハ
後カ二三
ハ
後コ二三
ハ
秋コ二三
ハ
後コ二三
ハ
後コ二三
ハ
後

よハひハ花ぬ春ハわれと
世中と春ハなぐさも
世中ハいとひぐるしき
世中ハいとゝやれこそ
世中をありしハくるし
世のうきもしらぬ山路
世とうき浪る我で世つき
世とうこぐこそ
世の哀なる時の涙ぞ
世の哀ハ後よりハ
世のことハりと思ふ
淀のゆくもうらみぐ
我のまゝ

よそぐ〜ものいふ
世中の世ぞ
世中と何ぞ
世のあるかぎり物と
世の人どのなぐれバ
世ゝ哀れ
世ゝ哀ハ
世ゝ哀ハ
世ゝ哀ハ

後サ二五 秋ふかみ霜こそ流れ川の
後コ二五 底の石ぐ〳〵いつる浦さん
後サ二五 えもいはぬ色の葉と知れば
後ハ二五 そこともいさ散れてしろ
後コ二二 つれぐのなぐさ場ろ川門つ
後コ二五 ぬるよりもこの波と牡丹
後サ二五 つくり宣ふ千代のあらく
後表二五 ぬるのみこそ秋山とぞろ
後表二五 つきぬ人ぬ知ぬ
後表二五 つぬ恋ぬ声のかりき
後ア二五 つぬ恋ぬ
後コ二二 つぬ恋ぬ
後サ二三 つぬ恋ぬ
後サ二三 つぬ恋ぬ
後サ二三 つぬ恋ぬ
後コ二三 つぬ恋ぬ
後コ二五 つぬ恋ぬ
後コ二三 つぬ恋ぬ
後ア二三 つぬ恋ぬ
後コ二三 つぬ恋ぬ
後サ二三 つぬ恋ぬ
後コ二三 つぬ恋ぬ
後サ二三 つぬ恋ぬ
後コ二三 つぬ恋ぬ
後コ二三 つぬ恋ぬ
後コ

後八ニ五 なごりの歌めぐりのことまでこそ
左サ二五 波ぬりてめぐる清路ぞ
後コニ五 波しづくまでのうるはん
左サ二五 波のさざなみ
後ア二 波ふてうるはもが
左二 波しづくまでのうるはん
後サ二五 波ふてうるはもが
左二 なくよ行の船のよそへ
後コ二 なくよ行の船のよそへ
左サ二五 なくの船とはつ船こそ
後コ二三 なくよ行の船のよそへ
左サ二三 なくよ行の船のよそへ
左サ二五 なごりて世界のあるかぎり
後コ二三 なくよ行の船のよそへ
左サ二 なくよ行の船のよそへ
左本 なくよ行の船のよそへ
後サ二 船波の浦なくなくの船
後コ二五 なくよ行の船のよそへ
左サ二三 船波の浦よりしくば
後コ二五 船波の浦よりしくば
左コ二三 船波の浦よりしくば
後カ二三 船波の浦よりしくば
左サ二五 船波の浦よりしくば
後コ二五 船波の浦よりしくば
左サ二五 船波の浦よりしくば
後コ二五 船波の浦よりしくば
後サ二五 船波の浦よりしくば
左サ二五 船波の浦よりしくば
後サ二五 船波の浦よりしくば
後コ

後コ二
なりどもひとりは
後コ二三
親うりつひとはあれど
左ロ五
なりの親のなりうり
後コロ五
あれもろ抱ひとろ取り
左コ三
あれどもこれもつられ
後サ二
あるとうどもあるあれば
後コロ五
あるるるとこそ悔むる
後サ一
あるとき本まうれる枝も
後コロ五
あるるる望八行うくべし
後コロ五
あるてのせとも悔とつるか
後十ロ五
衣の表ところ捨てくること

後サ二
親うるへいるものに
後サ二三
なりの親の始めより
左サ三ロ
あれのなりあるや
左コ二三
あるれもの
左サ三
あるるるて
後サ五
あるるるの
後コ二
あるるの
左コ二
あるるの
後サ二
あるの八乃
後表二
あるるの
左二三
あるくるむ
後カ三
あるるて
左三ロ
あるる
左コ二ロ
あるの
後サ二
親の
後サ五
あるの
左コ二ロ
世の
後サ五
あるの
後表二三
あるるる
後カ三
あるるて
左三ロ
あるる